

札幌の子どもたちと五十年

中島児童会館

全国初の公立児童会館としてオープンしてから平成十一年で五十周年。札幌の子どもたちに夢と希望を与え続ける、中島児童会館を紹介します。

終戦を迎え、大人たちが経済復興を目指して馬車馬のように働いていた時代。昭和二十四年七月三日に中島児童会館は誕生しました。建物はアメリカの進駐軍から払い下げを受けたかまぼこ型の兵舎四棟を改築したもので、「アメリカのお古」と嘆く市民もいたといいます。しかし、遊び場が少なく、さびしい思いをしていた子どもたちにとってはまさに「夢の城」。オープンの翌年には年間の利用者数が五万人を超えるなど、大変な人気を博しました。

同館ではオープン当初から、映画会、レコード鑑賞、人形劇や工作会と、さまざまな催しが行われ、その講師役として多くの大人たちが同館にかかわりました。マンガ家のおおば比呂司さんやボードピリアン（軽演劇俳優）として活躍した小野栄一さんおののさかいちも



かまぼこ型の児童会館の前で

その一人。後に小野さんは、下積み時代に同館のステージに立った経験を振り返り「かまぼこ型の会館での出会いが自分の進むべき道を決めた」と書き記しています。また、昭和三十六年に結成された札幌交響楽団が、定期演奏会の練習場所として利用するなど、同館は札幌の文化の発展にも貢献しました。

同館の指導員室の片隅に飾られている金色のレコ



「中島児童会館みんなのうた」
のレコード

ード。これは、開館三十周年を記念して、昭和五十三年、十二代目館長の宮下哲治みやしたてつじさんが子どもたちと一緒に作った「中島児童会館みんなのうた」です。子どもたちから募集した詩に宮下さんが曲をつけて、当時の豊水小学校の合唱団と同館の子どもたちが歌を吹き込みました。宮下さんは「会館でいろいろなことを経験して、将来の夢を見つけるきっかけをつかんでほしかった」と話します。

平成十一年七月三日、中島児童会館は開館から五十周年を迎えます。この長い年月を経て、札幌の街並みはすっかり変わってしまいましたが、子どもた

ちの元気な笑顔は、今も変わらず、会館の中にあふれています。

(平成十一年五月号・第五十六回)



現在の中島児童会館